

## 「奥内の棚田及び農山村景観」の重要文化的景観の選定について

- 1 区 分 重要文化的景観
- 2 名 称 奥内の棚田及び農山村景観
- 3 所在地 愛媛県北宇和郡松野町
- 4 区 域 松野町大字<sup>わらびょう</sup>蕨生の一部、奥内川の一部
- 5 面 積 370.3ヘクタール
- 6 概 要 

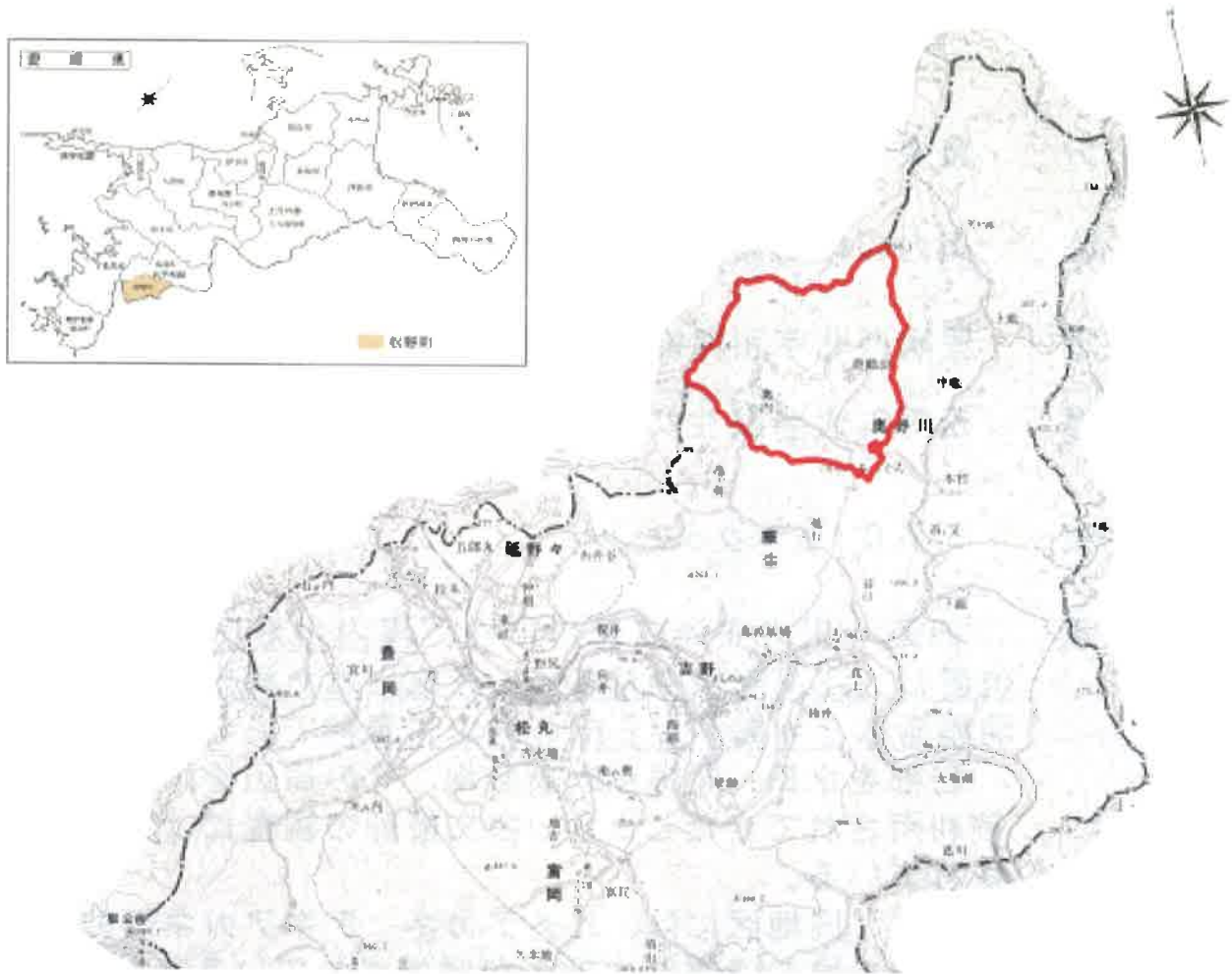
四万十川の支流広見川に注ぐ奥内川沿いの山間部に位置し、江戸時代中期以降に形成された棚田を含む遊鶴羽集落など4集落から成る農山村景観である。

谷部を水田、尾根部を屋敷地、その周辺を畑として継続利用されてきたことが、古文書等の調査によって確認されている。

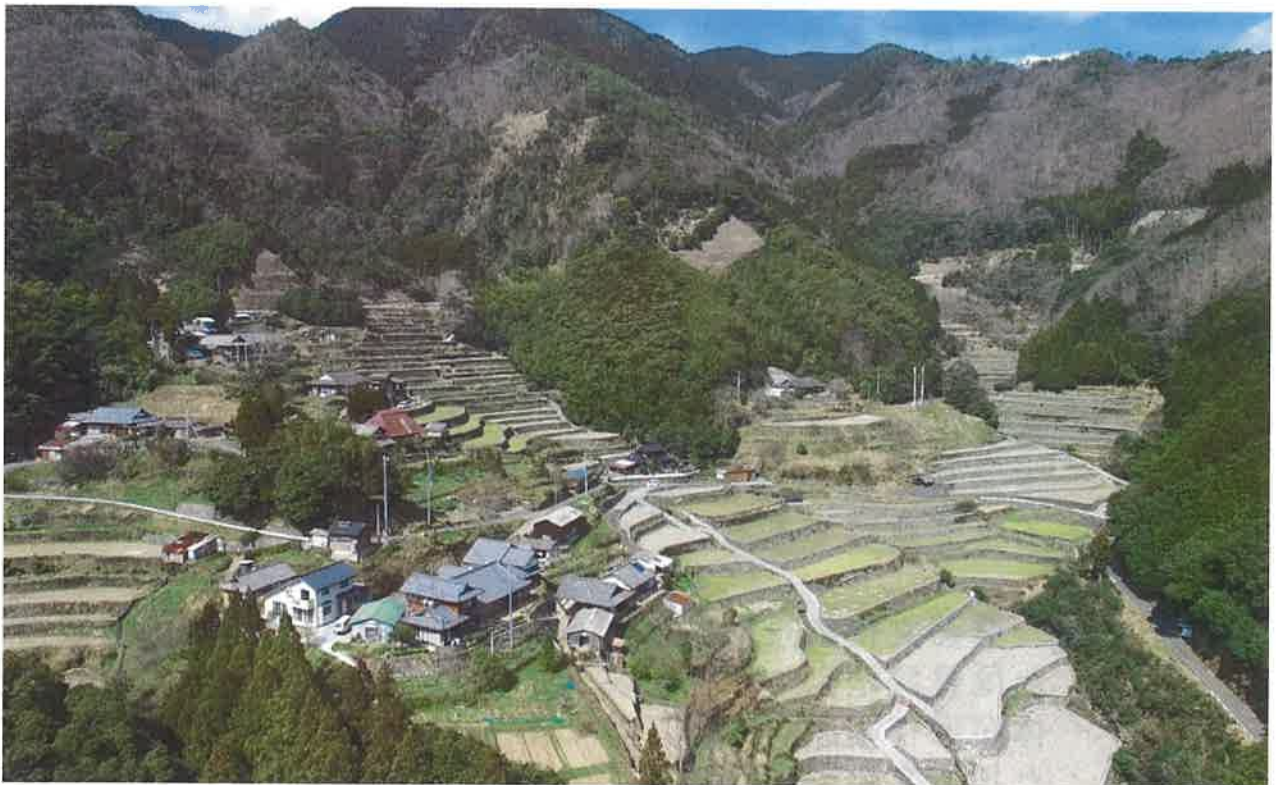
また、同地区には、ヒメアカネ・アキアカネ等の赤トンボ類を含む貴重な生態系が維持されているほか、周囲の山間部にはアラカシ・コジイ・コナラ等の天然生林が広く形成されており、地域本来の希少な山林景観を望むことができる。

平成11年に農林水産省の「日本の棚田百選」に認定されてからは、地元の全戸が加入する保存会が結成され、体験学習会の開催など棚田の保全活動が積極的に進められている。
- 7 評 価 「奥内の棚田及び農山村景観」は、四国南西部の四万十川源流域の山間部を開墾した小規模な棚田群から成る文化的景観で、四国山間部の厳しい地形条件の中で江戸時代以来現在まで継続されてきた生活又は生業を知る上で重要である。

【参 考】 重要文化的景観とは、景観法に基づく景観計画区域または景観地区内にある文化的景観であって、地方公共団体が保存措置を講じているもののうち、特に重要なものとして文化財保護法第134条第1項の規定に基づき文部科学大臣が選定した文化財である。



「奥内の棚田及び農山村景観」の位置



「遊鶴羽（ゆずりは）集落付近の文化的景観